

2006 年度

科目名 文学理論	対象学科・学年 文学部日文2 回生	担当者 東 典幸
授業テーマ 分析哲学者のエッセイと文学		
授業の概要と目標 前期は日本の分析哲学者の総帥であった大森荘蔵の『流れとよどみ』を読む。分析哲学とは、哲学の問題を言語の面から考える立場で、特に、日常的な言葉を使って考えるところに特徴がある。これを読むことで、論理的な文章の読解力と考える力を磨くのを目標とする。 後期は文学的な思考に関わるさまざまなテーマを扱う。		
評価方法 出席と授業態度を重視し、試験で成績を調整する。		
テキスト プリントを配布する	著者	出版社
参考書 流れとよどみ	著者 大森荘蔵	出版社 産業図書
授業スケジュール・内容 前期 1、夢まぼろし 2、確率と人生 3、記憶について 4、真実の百面相 5、ミリンダ王の車 6、「論理的」ということ 7、音がする 8、見るー考える 9、ロボットが人間になるとき 10、同じもの、同じこと 11、身振り、声振り 12、逆さメガネと股のぞき 13、古くて新しい生理学 14、時を刻み切り取る 15、心の中 後期 1 ～ 3 パラドックス 4 ～ 6 存在と固有名 7 ～ 9 言語にとって美とは何か 10～12 象徴主義 13～15 現代倫理学入門		